

業務部速報



No. 142

発行 22. 3. 17

JR東労組 業務部

申22号「2022年度賃金引上げ等に関する申し入れ」第3回交渉 交渉報告【要旨】③

会社は組合員の声を『受け止める』と言いながら受け止めていない！

組合 今回の賃金ではモチベーションが上がらないばかりか、魅力を感じていない。さらには転職を考える青年部員が6割を超えている。賃金の向上が、当社の魅力を向上しモチベーションを上げ、人材流出を防ぐ最大の要素である。会社は「社員が安心して働く環境を整えることが重要」「賃金が労働条件の最たるもの」という認識を述べていた。ならば、賃金の向上が一番重要であり、今回回答には至らないはずだ。

会社 最大限社員の声に応えるということも加味した中で、会社として出来る最大限の回答をした。

組合 生活・労働実感の実態から、賃金が低い水準であり、それが魅力低下や人材流出に繋がっている危機感を述べた。他労組の情報で「離職者に関して、予測の範囲内にとどまっている」と会社回答があったがどのような認識か。

会社 他労組のコメントは差し控える。離職率は世間一般的に比べれば決して高い水準ではない。その状況が良い状況ではない。社員に安心して働いて頂いて、長期的に働いていただきたい考えは変わらない。

重要!

組合 収入の回復は、組合員・社員の不断の努力だ。支える家族があってこそ働ける。会社も感謝、受け止めると言っているが、受け止めていないと断言する。経営側と大きな溝がある。受け止めるというが、回答が要求とは全く違う。我々からすれば、受け止めていない。

会社 社員1人ひとりの努力は、会社として受け止めてきた。その中で、今回の回答になった。社員・家族の幸福の実現は、コロナ禍前から出ている変革2027でも掲げている。会社としても逆境を跳ね返してしっかりと成長し、労働条件の向上など好循環を実現したい。

「ペア0」の理由の『赤字』は、経営責任を労働者に転嫁しているだけだ！

組合 第3四半期決算では人件費は2,721億円に対して、営業収益は1兆797億円だった。我々は人件費以上の収入を上げている。その収益をどうするかは経営判断だが、会社はこの間の春闘や期末手当の回答書で、「コントロール出来る幅の少ない固定費の占める割合が大きいという鉄道事業の特性」と述べている。固定費の高さを認識しながら、手を付けていない。赤字を理由にした回答は、我々労働者へ責任を転嫁しているにすぎないと感じる。

会社 鉄道事業はコントロール出来ない固定費が大きい特性があるので、収入が悪化すれば今のように赤字になる。極めて厳しい状況になる。それぞれの事業によって異なるが、様々な増収の取り組み、コストダウンなど固定費の割合が大きい状況においても、しっかり取り組んでいる。

55歳以上の組合員の赤字・コロナ禍での奮闘に報いていない！

組合 赤字の国鉄から黒字会社につくり上げた世代の組合員がいる。そのような方の努力や苦勞に報いる姿勢が示されていない。ペア0回答は、実質賃金の引き下げだ。

会社 今の状況を踏まえ様々に勘案した中で、社員の声に応えるということで最大限の回答を示した。

生涯賃金に影響を及ぼした定期昇給のカットの是正を求める！

組合 定期昇給の昇給係数のカット分について、生涯賃金にも関わる大きな課題である。

カットされたままでは、認められないのが我々のスタンスだ。下がっている賃金の是正を求める。

会社 賃金の引き上げは、毎年、その時々状況を踏まえた中で決定する。そのような状況も踏まえて、今回はこのような回答を示している。

しっかりと社員の声に応えられるよう最大限検討したい。

第二基本給の役割は終えている！

組合 退職手当の算出基礎となる第二基本給の凍結に対して、役割は終えているという認識である。

会社 世の中一般的に見ても、おかしな制度ではない。退職金の水準を見ても、他企業と比べて遜色ない。現行で妥当

65歳定年制を導入するべきだ！

組合 65歳の定年制導入の会社の認識はどうか。

会社 現時点では、現状を変更する考えはない。努力義務という法の趣旨を鑑みて検討したい。

**組合員・社員の悲痛な声を本当に「受け止めている」なら満額回答だ
中央本部は会社回答に対する意見を集約し、組織判断を行います！**